

倫理指導を初めて受けたS氏は、「自分の心が変わったその瞬間に環境が変わる」という体験をしました。

S氏は、会員の特権として日常生活や経営の悩みについて、倫理指導を受けることができるという聞いてはいましたが、改めて相談するような大きな問題もなく、自分には必要ないと考えていました。

ところが倫理指導を受けた倫理法人会の仲間から、「家庭の話でも何でもいいから、軽く相談するつもりで受けてみたらどうだ」と言われたのをきっかけに、倫理指導を受けることにしました。

S氏は家庭の様子を、研究員にありのまま話しました。ひと通り話し終えたところで、「こう言われたのです。『ずいぶんと独りよがりです。かちです。早く自分で結論を出そうとしてみませんか。これでは奥様の話を聞いていないと言えませんか』」

氏はハツとしました。すべては夫婦の仲にかかっている。夫婦の心が一致しているかどうか大切だと学び、会話を増やしていたはずだが、妻の話を心から聞いていなかったかもしれないと思っただけです。

さらに次の言葉が胸に沁みました。「これから奥様の話を、薄紙に水が染み透るよう聞いてあげてください」。この指導を受けて素直にやってみようと決心したので、家に帰ると、妻から「今日、玄米を炊ける電子釜を買ってきた」と言われたのです。実は、S氏は体調を崩し、以前から玄米食に変えたいと妻に話をしていましたが、玄米に変えたいからといって体調がよくなるわけでもない一蹴されていたのでした。加



小さな事柄でも 倫理指導で解決！

えて、今まで帰宅しても姿を見せることを避けていた子供たちが、明るく元気に「お帰りなさい」と言葉をかけてきたのでした。あまりの劇的な変化に、驚きと喜びを隠せなかったS氏は、倫理指導で素直に反省したのとほぼ同時に、妻が電子釜を購入していたとすれば、反省した心は瞬時に空間を飛び越えて、妻の心に反映したのかもしれない」と振り返ります。

さらには、これまで家に電話して頼みごとをしても、打てども響かなかった妻が、今では電話口の声のトーンが何音階か上がり、頼みごとには「わかりました。やっておきます！」と素直な返事が返ってくるようになったのです。

モーニングセミナーへの参加の際にも、以前だったら「こんなに早く起きて動き出すのは、あんたと泥棒くらいなものだ」と悪態をつき、布団から出て来なかったのが、今では玄関先まで見送ってくれるまでになったといえます。

倫理指導とは、頭の中でゴチャゴチャと理屈をこねくりまわしたり、相手の機嫌を窺ったり、逆に偉ぶってみせたりするとうようなものではなく、あくまで第一感を捉え、悪びれず率直にそれを伝えるものです。どんな時どんな場においても、相手の抱える苦しみの原因を鏡に映し出したように正確に捉える正常心をもって伝え、それを素直に聞き入れて実行する中で、奇跡的な変化が現われてくるものです。

え・栗木 映

苦難の解決に向けて、あるいは心境の向上に資するために、倫理指導を受けてみてはいかがでしょうか。